

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4171000252		
法人名	有限会社 ももえん		
事業所名	グループホーム ももえん		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字犬井道915番地1		
自己評価作成日	平成 22年 1月 31日	評価結果市町村受理日	平成 22年 5月 7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームの南側には畑があり、ボランティアの協力も得、季節ごとの野菜を栽培している。そこで収穫した野菜を毎日のように食べている。収穫や調理は利用者と一緒に行い、生きがいや楽しみを感じてもらっている。また毎月のおたよりを個別に作成し、ホームでの様子を写真も載せ伝えている。家族の方から大変喜ばれている。また毎年恒例の夏祭りには、地域の方の参加が年々増え、楽しみにしてもらっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成22年2月22日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

南面に田園風景が広がる静かな環境の中に立地する平屋建てのグループホームである。敷地内に菜園と広場を有し、菜園で採れた旬の野菜をふんだんに使った食事が提供されており、広場は地域住民とのラジオ体操の会場として提供されている。入居者の行事参加や暮らしぶりを写真で知らせる「ももえんだより」が毎月家族に送られている。かかりつけ医による訪問診療が行われており、健康管理、緊急時に迅速な対応ができる24時間連絡可能な協力体制が取られている。重度化や終末期へのチーム支援もしやすい体制になっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても、住み慣れた地域の中で、その人らしく生き生きと、有する能力に応じ、笑顔で生きていける事を理念とし、全職員で日々のケアを行っている。また、ミーティングや会議等において理念に沿ったケアを行っているか、常に確認している。	自宅生活の継続性とホームと地域の関係性を重視した独自の理念をつくり、その理念を管理者と職員が確認し合いながら日々実践されている。また、職員間で理念について話し合う機会も持たれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事の際は、地域の方々にも声をかけ、参加していただいている。年々参加して下さる人数も増えている。また地域の行事にも出来るだけ参加するよう努めている。最近では地域の方から、声をかけてくださるようになってきた。	自治会に加入し、地域行事の神社のお祭り、ゲートボール大会や除草などに参加している。ホームの広場は夏休みのラジオ体操の会場として提供するなど地域との交流が密に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方の入居申し込みも増え、最近では認知症についての相談にも来られる事が多くなってきた。来られた際は、ゆっくり話を聴き少しでも力になれるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの報告や情報交換だけでなくとどまらず、その中で出た意見をサービス向上に活かしていく事が出来るよう、全職員で考えケアに活かせる様努めている。	運営推進会議メンバーの日程調整が難しく現段階では年に3回開催されている。ホームからの報告や情報交換等が行われ、そこでの意見はサービスの向上に活かすよう努められている。	今後更に、運営推進会議の意義を理解してもらい、地域との協力関係を深める機会とし、2ヶ月に1回の開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供における問題点やわからない事は、常に相談し助言や指導を受けている。迅速に対応してもらっている。	市の福祉担当者にホームの実情やケアサービスの取り組みを折りに触れ伝え、ホームからの相談事項に対して気軽に応じてもらえるなど協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指し、職員間で意識を高めている。玄関の施錠は夜間帯以外していない。	管理者及び職員は身体拘束の内容とその弊害を理解し、入居者の一人ひとりの外出の傾向を把握し、見守りによるケアが徹底されている。近隣の人たちによる見守り、声かけなどの協力体制も築かれており、拘束をしないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加したり、事業所内で勉強会を行い、全職員で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度を利用されている方が1名おられる。必要な方には制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設を見学していただき十分に説明を行い、契約の際も十分な説明に加え、質問にも答え、理解・納得をしていただいたうえで契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族には常に意見や要望がないか尋ね、出た意見に対し全員で話し合い、運営に反映させるよう努めている。また運営推進会議の中で、報告している。	家族の訪問時、家族会等で常に問いかけ、気軽に意見が言える雰囲気作りに努めている。外部者に意見や苦情を表せる場があることも説明されている。出された意見等は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時、また日頃より職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるよう努めている。	管理者は、運営に関する職員の意見や提案が得られるようミーティングなどの機会を設けて問いかけをし、職員からも積極的な意見や提案が出されており、それを運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力に対し労いの言葉や処遇に反映させるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加させたり、勉強会を開催し常にスキルアップの機会を設けるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修会に参加する事で、他の施設の方々との交流や意見交換を行う事が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんの想いを受け止めることが出来るよう、表情や言動を注意深く観察し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より不安なことや相談事には十分に話を聴き、思いを汲み取り、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のそれぞれの状況等を踏まえ、一番適したサービスが受けられるよう見極め、必要に応じ他のサービスの情報を提供する等、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬しながら、共に喜び悲しみ支えあう事ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援していくには、家族の協力が必要。家族と職員が同じ思いで本人を支援出来るよう、関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等から本人のこれまでの生活状況を十分に尋ね、本人に合わせた話が出来よう努めている。また大切にしてきた馴染みの人や場所とも関係が途切れないよう努めている。	入居者の馴染みの関係を把握し、出身地域のお祭りなどに参加して知人や友人との関係が継続できるよう支援している。また、馴染みの人たちにも気軽に訪問してもらうよう配慮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人を尊厳し、利用者同士の良い関係を築くため、その時その時の状況を把握し、嫌な思いをされないよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事への参加を呼び掛けたりし、継続的に関わられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりを尊厳しその人らしい生活が送れるよう、本人や家族の意向を把握し、プランを作成している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な入居者にはゆっくり話しかけて表情やしぐさによって確認しながら本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居際、また入居されてからも情報収集に努めている。知り得た情報は全職員共有し、ケアの統一に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が利用者一人一人を常に把握出来るよう観察し、記録や申し送りの徹底に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人・家族の意向また主治医や職員等関係者の意見やアイデアを反映し作成している。また期間に応じて見直しをしている。状況に変化が生じた場合も、都度話し合い現状に即した介護計画作成に努めている。	入居者が自分らしい生活が送れるように本人や家族の意向をよく聞き、主治医からの意見を含めて職員で話し合い、介護計画の作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践・結果を利用者個別に記録し、全職員が情報を共有し、見直しや新たな立案に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数の家庭的な雰囲気を活かしながら、本人や家族の状況や要望の把握に努め、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際は地域のボランティアに協力していただいたり、消防訓練や応急手当の勉強会には、地域の消防署の協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿ったそれぞれのかかりつけ医の訪問診療を受けておられ、24時間連絡可能な体制である。	入居者が希望するかかりつけ医による訪問診療が行われており、かかりつけ医とホームの関係は緊密である。緊急時の対応も含め適切な医療が受けられる体制が確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結んでおり、日常の健康管理や医療支援を受けることができている。また疑問点などは都度相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は協力医と一緒に病院に出向き、担当医から現状の説明を受け、情報交換を行いながら今後の方向性を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針の説明を行い、本人や家族に意向を確認している。そして重度化した場合はさらに十分な話し合いを繰り返し、納得のいく方法でその時を迎えることができるよう努力している。	入居者や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、早い段階から入居者や家族と話し合いを行い、状況の変化に応じて随時意向を確認しながら方針の共有を図り、チームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て訓練をしたり、勉強会をするなどし、急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯での訓練は行っているが、夜間帯の訓練が出来ていない。また地域の協力体制の構築に努めているが、なかなか困難で出来ていない。	年2回消防署の協力を得て消火訓練及び避難訓練が実施されているが、夜間を想定した避難訓練はまだ実施されていない。地域への協力要請もなされているがまだ実現していない。	地元消防団や地域住民との協力体制を築き、昼夜間を問わずいざという時に確実な避難誘導ができるよう避難訓練の充実を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬しながら接するよう努めると同時に、常に気を配りながらプライバシーの保護に努めている。	入居者一人ひとりの気持ちを大切にしたりさげないケアが心がけられている。また、個人情報については責任ある取り扱いと管理が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行に伴い表現力や理解力が低下していく為、本人の思いを引き出す事の出来るケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務マニュアルは決めず、入居者のペースを優先し希望に沿った対応が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に応じ、行きつけの美容室に行くなど支援している。また好みの化粧品や整髪料を使い、その人らしさの継続に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決め・買い物・調理・味見・配膳・後片付けなど、個々の好みや力を活かし食事に携わることが出来るよう支援に努めている。	入居者の好みや力を活かしながら、調理、食事、後片付けなど入居者と職員と一緒に行って食事が楽しいものになるよう支援されている。食材は菜園で採れた旬の野菜が使われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや食習慣を取り入れながら、栄養のバランスや体調等を考慮し、十分な栄養と水分が摂取出来るよう支援している。また個々の状態に応じ食事形態や調理法の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じ歯ブラシ・クルリーナ・スポンジ等道具を工夫したり、練り歯磨き・液体歯磨き・ウーロン茶等洗口剤の工夫もしながら口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握したうえで、定期的にさりげなく誘導をしたりし、トイレで気持ちよく排泄出来るよう支援している。	プライドを傷つけないようさりげない介助が実践されており、入居者一人ひとりの排泄パターンや習慣に応じて、きめの細かい排泄の支援が行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、ココア・ヨーグルトなどを毎日摂取してもらったり、運動の働きかけや、落ち着いて排泄出来る環境作りに努めている。またチェック表を用いて、一人ひとりに応じた便秘予防対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制である。拒否がある場合は無理強いせずタイミングが合った時に入浴してもらっている。	入居者の一人ひとりの希望にそっていつでも入浴を楽しめるよう支援が行なわれている。衣服の着脱時等にはプライドを損なわないよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じた寝具を準備している。睡眠や休息は本人のペースに合わせ、気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気や薬について、勉強会や一覧表で全職員が充分把握出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、また出来る力を見極めあ把握し、自信や喜びを感じてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ外出出来るよう支援している。自ら希望されない方にも出来るだけ外出の機会を持つよう努めている。	買い物、散歩、墓参り、地元のお祭りへの参加など入居者の希望に応じて外出支援が行われている。また、敷地内にはウッドデッキ、菜園、広場が設けられており、戸外での野菜づくり、入居者同士の談話や日光浴をいつでも楽しめるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望やちからに応じてお金を所持し、自由に買い物が出来るよう支援する体制ではあるが、お金を持つことで、不安や混乱の原因となる場合が多く、希望通りに支援出来ないことも多々ある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。電話の声が聞こえにくかったり、手紙の文字が書けない場合には、代行するなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の南側はほとんどがガラス戸で、そこからは田畑が広がっていて、季節ごとの作物を見ることが出来る。またそこから自然の光が充分に入る構造になっている。光の強さもブラインドで調整でき、照明器具は温かみのある電球を使用している。	居間は自然の光を十分に取り込んで明るい。浴室やトイレはゆったりとして動きやすいスペースが確保されている。居間から窓越しに広い田園風景が眺望でき四季の移ろいを感じることができる。静かでゆったりと過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にもそれぞれの居場所があり、一人の時間や気の合う利用者同士で、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方と相談し、本人が使用していたタンスや鏡など置き、今までの生活環境との変化が少ないよう工夫している。	各居室には、入居者の使い慣れた家具や馴染みの品が持ち込まれ、居心地よく過ごせるようにレイアウトされており、それぞれに个性的で暖かい雰囲気を感じさせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やソファ・トイレ・ベット等、一人ひとりの身体機能に応じ対応できるよう工夫している。		